

群桐グループ
2017年発行 環境活動報告書



2017年4月撮影

Environmental report

Contents

目次

コーポレートデータ

トップメッセージ	2
会社紹介 (株)群桐産業	3
群桐エコロ(株)	4
新社屋紹介	5

マネジメント

コンプライアンス	9
リスクマネジメント	10
環境組織図	11
財務データ	13

社会報告

労働環境の向上	15
地域社会との関わり	17
メディア掲載等	19

環境と安全

環境目標とその実績	21
環境への主な取組	23
大気環境測定結果	24
安全対策	25

その他

おわりに	26
------	----

発行時期

2017年8月(次回発行、2018年夏予定)

対象期間

本報告書に掲載した数値・データおよび内容は、2016年度(2016年6月1日～2017年5月31日)の実績を集計したものです。

対象範囲

(株)群桐産業および群桐エコロ(株)

公表数値

公表数値につきましては、端数処理により合計が一致しない部分がございます。

本報告書に関するお問い合わせ先

(株)群桐産業 広報室
TEL.0277-78-2479

本レポートは、当社ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.grr.co.jp>



群桐グループはISO14001の
認証を取得しています。

「共に」の精神を胸に、 産業廃棄物処理の更なる広がりを目指します。



群桐グループ会長 兼
群桐ホールディングス代表取締役
山口 茂

「環境活動報告書2016」の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

群桐グループは、近江商人のモットーである売り手よし・買い手よし・世間よしのいわゆる「三方よし」を掲げております。

産業廃棄物処理を生業とする私たちにとって最優先すべきはお客様のこととなります。グループの基礎になっている群桐産業では、創業当初からお客様の急な廃棄物の回収や流出などの案件にも出来る限りご対応させていただきました。そしてその姿勢は今でも変わらず続けさせていただいています。

2016年4月より本格始動した低濃度PCB廃棄物処理事業は、おかげさまで現在では2基の固定床炉が稼働しております。

新規事業だったため当初は何もかもが手探り状態でしたが、1年余り経った今ではシステムの構築と共に独自の処理ノウハウを蓄積し、群桐グループの中核を担うまでとなっています。

経済社会とは切り離すことのできない産業廃棄物を私たちが適正に処理させていただくことがお客様と私たち、そして社会のためとなり正に「三方よし」の体現を自負しております。加えて、私と群桐グループに関わる全ての方と共に歩む「共に」の精神を抱いて業務に全力を尽くし、さらに環境活動や地域社会への貢献に積極的に取り組むことにより、社会的責任(CSR)を果たしていきたいと強く考えております。

本報告書を通じて、群桐グループの環境活動および社会的責任への取り組みの姿勢の一端をご理解いただければ幸いに存じます。

私の全てのはじまりである群桐産業は2017年11月で創立33年を迎えます。これからも社員をはじめとするステークホルダーの皆様のお力をお借りしてまい進していきたいと思っております。



株式会社 群桐産業

会社名 株式会社 群桐産業
代表者 濱屋 博
資本金 6,000万円
住所 群馬県太田市大原町78番地1
連絡先 TEL 0277-78-2479/FAX 0277-78-5084
E-mail info@grr.co.jp
URL <http://www.grr.co.jp>



(株)群桐産業 代表取締役
濱屋 博

～2016年を振り返って～

2016年度の再生重油製造販売において、世界的な原油過剰供給状況は若干の正常化への動きがあり、販売量的には元の状態へ戻りつつあるものの、驚異的な原油価格暴落のつけはまだまだ残っており、再生重油の販売単価は微増にとどまりました。今後は市場の状況及び他社の動向を細かく捉えながら量と単価の両面から改善に向けて取り組む必要があり、社内的な取り組みとしては、再生重油の原料である廃油の回収量アップを計りたいと思います。

2016年3月に環境大臣の認定が下りた群桐エコロ新田工場固定床炉の低濃度PCB無害化処理においては、営業部での現地調査、見積り、受注契約、並びに運搬業務、事務方による伝票等書類の整理及び請求業務等と、忙しい中にも精度の高い対応が要求され、それに応えるべく日々精進しているところです。2017年度は低濃度PCBの無害化処理において、案件としては、ますます増加する一方、期限付きの業務であり、より計画的な営業展開が要求されます。国の重要課題であり環境省の認定の元進めている事業であることから、群桐グループは一丸となり、より一層の緻密で迅速な活動を推し進めていきます。

群桐産業においては、焼却施設維持管理、収集運搬部門のソフト、ハード両面における充実、繊細かつ積極的な営業の展開、そして群桐エコロの処理施設維持管理の徹底を図り、これからも安心・安全をお約束する環境企業として日々成長していく所存です。



プラント外観(敷地面積 6,000㎡)

群桐グループ営業部門。

広域的に許認可を有し、お客様から廃油をはじめとする産業廃棄物を回収します。

また、焼却プラントでは医療系廃棄や廃プラスチック類、汚泥や塗料、水溶性廃油などを焼却処理しています。

焼却処理後に発生する飛灰と燃え殻は、グループ会社の群桐エコロ(株)に熔融リサイクルを委託しています。

グループ全体の営業窓口及び、廃棄物の運搬から処理業務までの全般を担っています。



Guntoh group

群桐エコロ 株式会社

会社名 群桐エコロ 株式会社
代表者 山口 博
資本金 2,000万円
住所 群馬県太田市新田大町600番26
連絡先 TEL 0276-55-0500/FAX 0276-55-0501
E-mail info@grr.co.jp
URL <http://www.grr.co.jp/ecologista/>



(株)群桐ホールディングス 取締役社長 兼
群桐エコロ(株) 代表取締役
山口 博

～2016年を振り返って～

2016年4月から低濃度PCB廃棄物の固定床炉での無害化処理を開始しました。まずは安全に少しずつ処理を始め、無害化処理を確認しながら徐々に負荷を高めていきました。その後は処理受託量も増える中でトラブルなく順調に処理を進めることが出来ました。そして年度末の2017年3月に2系列目の固定床炉が稼働を開始し、当初計画の処理体制が整いました。今後はPCBの処理についてより一層注力し、国や自治体を始め、地域社会に貢献していきたいと思っております。

2016年10月には「人工砂の加工」について、ISO 9001:2015の認証を取得しました。溶融施設の稼働開始からこれまでの間に渡って安定的に安全な「人工砂：サーブルオール®」を製造してきた実績をより明確な形で示すとともに、JIS認証に向けた取り組みの一つでもあります。天然の砂に代わる資材として当製品が活用されることによって自然保護につながり、循環型社会の形成にも寄与しますので、今後も継続して品質管理を徹底するとともに利用普及に取り組みで参ります。

最後になりますが、群桐ホールディングスビルが完成し、2017年3月に群桐グループが集合して本部機能を有することが出来ました。また、同時期に群桐産業が群馬県の優良企業表彰(商業・サービス部門)を受賞しました。これを励みにグループ丸となって、「サービス」の質をより高めながら、安心・安全に基づく「信頼」を築いていきたいと思っております。



群馬ハイブリッドクリーンセンター(敷地面積 34,667.71㎡)

群桐グループ施設維持管理部門。

(株)群桐産業がお客様から回収または収集運搬業者から持ち込まれた廃油を、自社システムでリサイクル処理し再生重油として販売しています。

リサイクルできない廃油やその他の産業廃棄物は、焼却溶融処理して溶融固化物から人工砂を製造。アスファルトの下に敷く路盤材やコンクリート骨材その他の建設土木資材の用途で有効利用されています。

全国でも希少な焼却溶融施設を擁し、最終処分場として(株)群桐産業からの燃え殻も処理します。

環境大臣の認定を受けて、低濃度PCB廃棄物の無害化処理を行っています。

New office building

新社屋紹介

新しくなった群桐グループの社屋の一部をご紹介します。

大会議室(4F)

4階の大会議室は群桐ビル随一の広さを誇り、150人を超える人数を収容することができます。

そのキャパシティから、主に社内行事やイベント等で使用されています。



群桐グループ本部(3F)

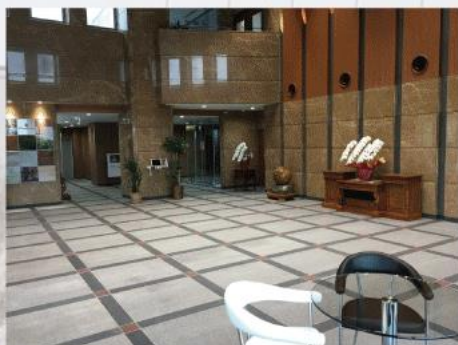
群桐ビル3階にある本部では経理や広報、企画等特殊な業務を担当するスタッフが席を構えています。



エントランス(1F)

お客様をお出迎えるエントランスは、2階部分まで使用した二層吹抜となっています。

通常のエントランスより空間を広く使用していますので、非常に開放的です。





従業員食堂(3F)

営業本部に隣接する従業員食堂は、喫食スペースだけでなく休憩室も兼ねており、従業員にとっては憩いの場となっています。



群桐グループ 営業部&総務部(2F)

2階スペースの殆どを占める大部屋には(株)群桐産業の営業部および総務部、そして群桐エコロ(株)の総務部が入っており、営業活動の拠点となっています。

各会社の代表電話はここで受けられ、各スタッフに転送されます。



応接(1F)

1階にはお客様を迎える応接室があります。

特にメインで使用される第1応接室は台湾からの調度品で揃えられており、落ち着いた雰囲気となっています。



New office building

新社屋紹介



<新社屋概要>

住 所： 群馬県太田市大原町78番地1

構 造： 鉄骨鉄筋コンクリート造

階 層： 地上6階(高さ26.45m)

敷地面積： 2,692.19㎡

建築面積： 505.72㎡

延床面積： 2,149.29㎡

特 徴： (株)群桐ホールディングスおよび(株)群桐産業本社、群桐エコロ(株)の本部事務所として使用。また、上階に一部従業員寄宿舍スペース有
照明は全てLED照明で、一部人感センサーを採用
セキュリティ対応として入退社時および一部の部屋の立入にICカード認証を採用



社屋の南側には広大なつつじの庭園があり、見ごろとなる4月下旬には色とりどりの花を咲かせます。

この景色はエントランスや応接室からも一望でき、お越しになるお客様の目を楽しませます。



今年6月には新社屋エントランスにて、落成記念祝賀会を開催。来賓には太田市長の清水聖義様をはじめ、衆議院議員の笹川博義様や井野俊郎様、またお取引企業様など 150名を越す方々にご臨席を賜りました。

Management — マネジメント —

群桐グループは、すべてのステークホルダーの信頼に応え、環境と経済の共存を図るべくコーポレートガバナンスの強化と充実に努めています。

群桐グループコンプライアンス基本方針およびステークホルダーとの関わり



① コンプライアンス

コンプライアンス経営体制

群桐グループは、遵法意識の一層の強化充実を図り社会的信頼を確立するため、グループ全従業員の行動原則となる「群桐グループコンプライアンス基本方針」を制定するとともに、役員及び全従業員への日常行動の具体的な指針である「コンプライアンス・マニュアル」の配布や教育研修の実施等により、コンプライアンス意識の向上、徹底に努めています。

行動基準

群桐グループは、廃棄物処理事業者としての社会性および公共性を有していることから、コンプライアンスにおいて法令遵守はもちろん、社会規範も厳しい基準を持って遵守することと認識しています。

常時掲げている理念「地域、顧客との信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与する」を達成し、お客様からの信用・信頼を基盤とする当グループがこれらを一層強固なものとしていくためには、役職員一人ひとりが従来以上にコンプライアンスを意識し、法令やルール、社会規範に則った行動を取るとともに、その行動を積み重ねることが重要です。

監査体制

監査役監査について、各監査役は、監査役会を定期的を開催するとともに、取締役会その他の重要な会議へ出席するほか、グループ会社を含む業務および財産の状況の調査等を通じて、リスク管理をふまえた取締役の職務執行の監査を行っています。

内部監査については、内部統制システムの信頼性を確保するため、社内に内部監査部門を設置し、「内部監査規程」に基づき、適正な業務運営の維持とともに業務改善および経営の効率化をめざして実施しています。

会計監査については、当社と監査契約を締結している会計事務所が実施しています。これら監査役、内部監査部門および会計監査人は、監査計画や監査実施結果等について適宜情報交換を行うなど常に連携を図っています。

② コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

群桐グループは、「地球規模で考え、足元から行動する(Think Globally Act Locally)。」企業であることを心掛けており、お客様をはじめ、お取引先、従業員、地域社会等の全てのステークホルダーから評価、信頼される企業を目指しています。

また、経営監督機能の充実と、内部統制システムの整備によるリスク管理と説明責任の遂行、及びコンプライアンス徹底のための施策を通じて、公正で透明性のある企業活動を実現することを、コーポレート・ガバナンスの基本的な方針としております。

①情報セキュリティ対策

群桐グループでは、機密管理を強化するために情報管理の徹底を図っています。情報システムのセキュリティは外部の専門業者に委託。また主にソーシャルメディア利用に関する情報発信においては、従業員向けのルール(ガイドライン)を策定し、独自判断でやって良いこと・承認が必要なこと等、行動基準を策定しています。また、社内のPCの取り扱いにおいてもセキュリティソフトの導入はもちろんのこと、定期的なデータのバックアップやパスワード設定、不審なメール対応などセキュリティの強化に注力しています。

これらは社員の教育研修においても重要視され、昨年の4月から新卒・中途問わず新入社員には必ず機密管理教育を開始。さらなるセキュリティ強化と従業員の意識向上を図っています。

また、私達は業務を通じてお客様の情報を入手しているため、現場においてもお客様の情報は処理業務として必要な情報以外は 1.見ない(見せない) 2.話さない 3.持ち出さない の「情報管理の三ない運動」を実施しています。

②労働安全マネジメントシステム

(株)群桐産業及び群桐エコロ(株)では両社それぞれに安全衛生委員会を設置し、安全対策及び安全衛生計画を立案し推進しています。安全衛生委員会では「労働無災害継続」を宣言し、経営層と従業員が一体となり重大な労働災害の防止や自然災害発生時の影響を最小限にする体制づくりなどに取り組んでいます。更に、リスクアセスメントによる設備の安全対策や災害防止対策を審議するとともに現場のパトロールを行い、ルール遵守の徹底や安全教育の実施により、安全に対する意識向上に努めています。

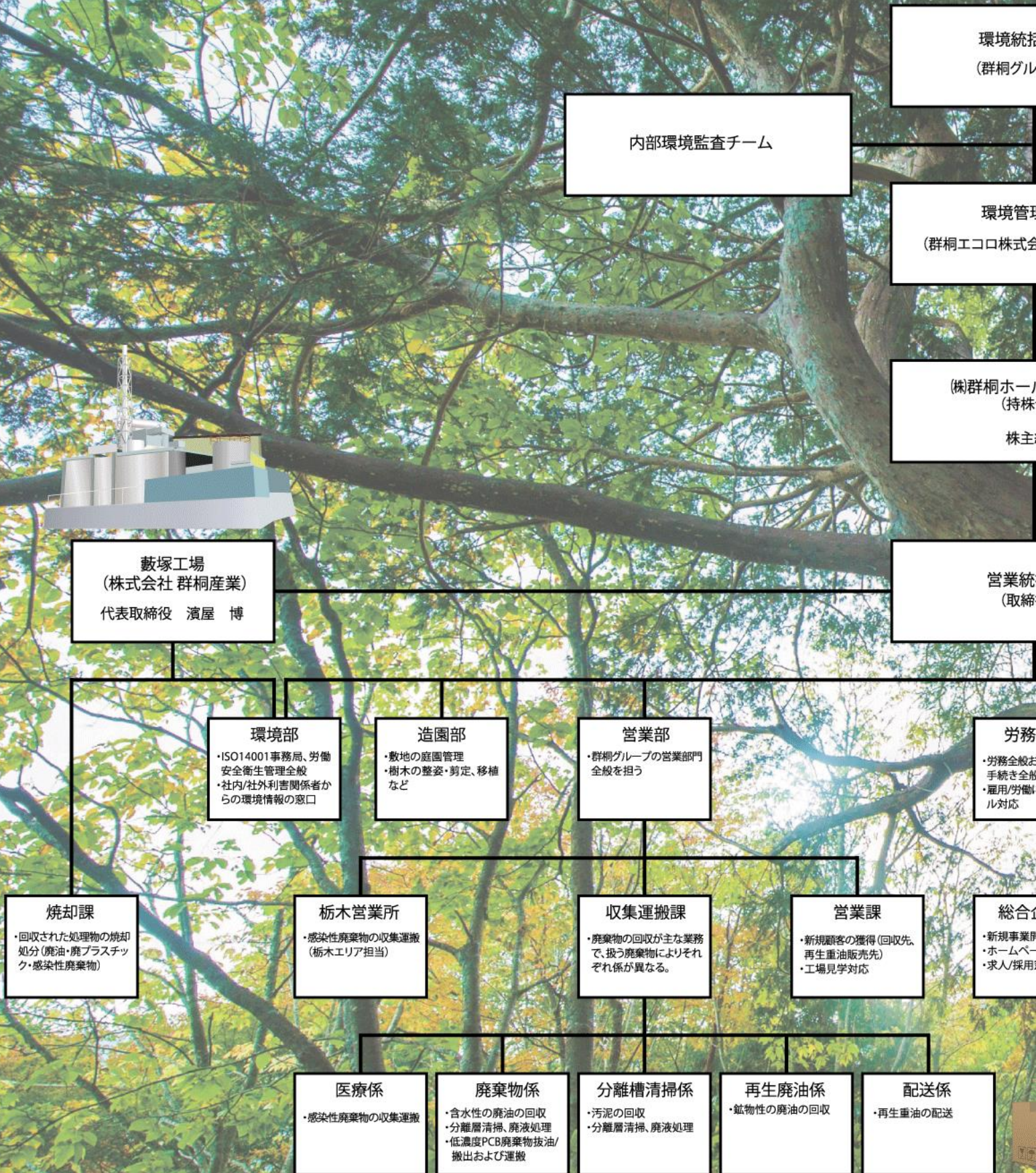
また、各安全衛生委員会事務局は、両社の安全会議の情報の共有に努めています。



Organization chart

環境組織図

群桐グループ環境組織図



話責任者
群桐グループ会長)

理責任者
会社 代表取締役)

ルディングス
会社)
総会

括本部
役会)

・人事
および社会保険
役
におけるトラブ

企画室
開発等
プロジェクトの管理
窓口

総務部
・群桐グループにおける
事務職員が所属

広報室
・社内外の情報収集および
発信/広報活動全般
・ホームページの管理

総務課
・社内/社外出納業務
・マニフェスト管理

エコロ総務課
・社内/社外出納業務
・マニフェスト管理

環境部
・ISO14001事務局、労働
安全衛生管理全般
・社内/社外利害関係者か
らの環境情報の窓口

オイルリサイクル部
・搬入された廃油の油水
分離処理(再生燃料油化・
再資源化)

溶融リサイクル部
・廃棄物の再資源課および
施設の修繕

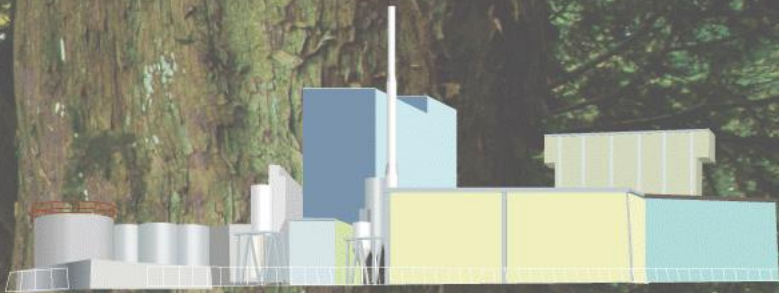
分析室
・廃棄物および製品(再資
源化物)の性状分析
・各種環境測定義務(社外
依頼、行政報告、記録管理

維持管理課
・プラントの機械運転、制御
管理
・低濃度PCB廃棄物投入
および焼却処理

資源課
・廃棄物の焼却溶融処理
(再資源化)
・低濃度PCB廃棄物受入、
荷降し業務全般

収集運搬課
・低濃度PCB廃棄物
抜油/搬出および運搬

当社の環境組織図は図のようになっています。
群桐グループの会長を環境総括責任者とし、群桐
エコロ(株)の社長を管理責任者としています。
また、各課の責任者は内部監査官としてEMS(環境
マネジメントシステム)事務局と共にチームを編成し、
年1回の内部監査を実施しています。
EMS事務局は、環境部が主幹しており、環境管理責
任者と共に環境活動における重要な役割を果たして
います。
環境管理責任者は、主に法律関係や環境目的・目標・
プログラム等に関わる業務の管理並びにその他業務
の管理及び承認を行います。
環境総括責任者は、各種重要項目の承認並びに環境
管理計画の見直しによる是正・改善を、環境活動が継
続的かつ効果的に運用されるよう環境管理責任者に
指示します。



新田工場
(群桐エコロ 株式会社)
代表取締役 山口 博



群桐グループ売上高

株式会社 群桐産業

平成28年6月1日～平成29年5月31日 (単位:千円)

売上高	3,304,119
-----	-----------

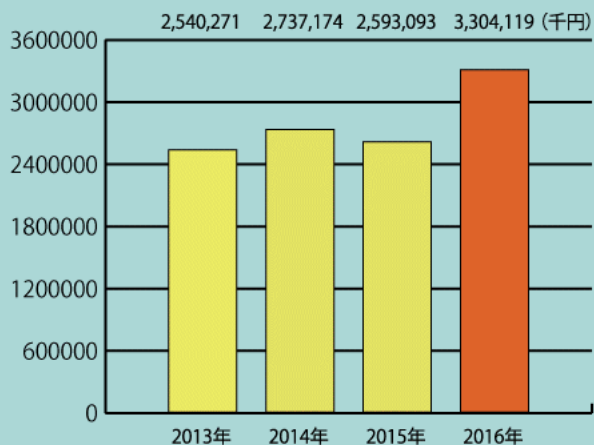
群桐エコロ 株式会社

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位:千円)

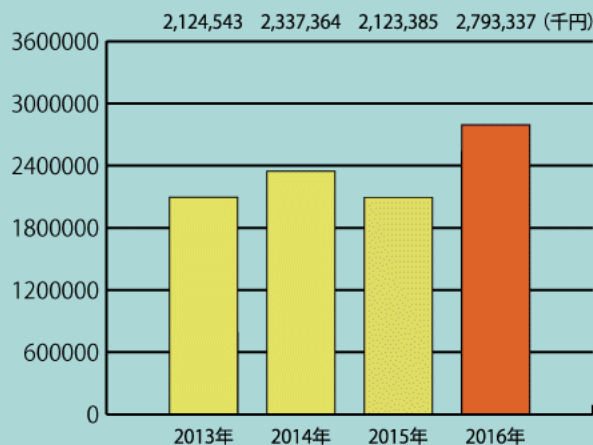
売上高	2,793,337
-----	-----------

売上高の推移

株式会社 群桐産業



群桐エコロ 株式会社



2016年度は(株)群桐産業・群桐エコロ(株)共に低濃度PCB廃棄物の処理を主軸に営業活動を行った結果、前年度の売上を大幅に上回り過去最高益を計上することとなりました。

より詳しい財務諸表は弊社ホームページより産廃情報ネットにお入りいただき、ご参照いただければ幸いです。



群馬ハイブリッドクリーンセンター(群桐エコロ(株))の低濃度PCB廃棄物処理用固定床炉(左)と専用の30tフォークリフト(右)。低濃度PCB廃棄物処理は、現在群桐グループの中核を成す事業となっています。

群桐グループは、企業市民として地域社会へ貢献していくために従業員が一丸となってさまざまな取り組みをおこなっています。



Improvement of working environment

労働環境の向上

働きやすい環境づくり

◆福利厚生・各種手当の充実

群桐グループでは、常に従業員にとって働きやすい職場環境を整えることに注力しています。2015年より採用した週休二日制度をはじめ、各種社会保険、育児休業、介護休業から社宅までさまざまです。

また各種手当も充実しており、多くの資格が対象となる資格手当の他、扶養の親まで該当する家族手当や子供への教育手当等があります。

今後は有給休暇取得の促進や各種施設利用等の面で力を入れていく予定です。



女性スタッフもいきいきと職務に励んでいます。

◆社員の健康管理

群桐グループでは、希望者は会社負担でインフルエンザの予防接種を受けることができます。

さらに、産業医によるカウンセリングも実施されており、これにより社員の健康障害の予防と共に、心身の健康が保たれています。

また、2月には臨床心理士を招いてメンタルヘルスケア対策講義を受講。ストレスの解消法として運動、入浴、睡眠、食事の大切さや、リラックスできる呼吸法を学びました。



臨床心理士 佐藤絹恵氏産業医による講義。仕事上よくある身近な事例をロープレ形式で実践。

社内コミュニケーション

◆社員研修旅行

群桐グループでは毎年冬の時期に、(株)群桐産業と群桐エコロ(株)の全社員で社員旅行に行きます。

宴会(忘年会)の席では永年勤続の表彰式が行われ、今回は6名の社員が該当し、表彰されました。

この旅行は、普段あまり顔を合わせる事の無い両社間の社員同士の大切な交流の場となっています。



2016年11月、千葉県鴨川温泉にて。

◆社内バーベキュー

平成29年4月の社屋移転を機に、新社屋の庭で全社員参加のバーベキュー食事を開催しました。

当日は社員皆ができるだけ早めに仕事を切り上げ、準備を進めました。夕方から始まったこのバーベキューですが、殆どの社員が夜遅くまで残って楽しんだ1日となりました。



会場となった庭ではつつじが見頃を迎えており、参加者の目を楽しませました。

◆社内ゴルフコンペ

ゴルフが好きな社員が多数在籍する(株)群桐産業では、年に1回ゴルフコンペが開催され毎回大いに盛り上がっています。

優勝者が次回の会場を決める方式になっていて、部署間はもとより上司や部下の垣根を越えてゴルフを

楽しめます。コンペといっても仲間内で行うものなので、誰もが気軽に参加できるのが利点です。

◆平成29年群桐グループ年頭全体会議&新年会

平成29年1月13日マリエール太田にて、群桐グループ初の年頭全体会議および新年会が行われました。

今回はグループの社員総勢119名の参加となり、山口会長より年頭挨拶がありました。挨拶では間もなく稼働する3号炉や新社屋の完成の話などが主で、年頭を飾るに相応しい内容となりました。

その後は新年会となり、美味しいお酒や料理を堪能しながら楽しいひとときを過ごしました。



新年会では、サプライズで山口会長より従業員全員にお年玉の配布がありました。

多様な人材の育成と確保

◆資格取得支援制度を通じた自己啓発の推進

社員一人ひとりがチャレンジ精神を持って自身の資質を高めるための自己啓発支援の一環として、業務に直結した資格の習得を目的とした資格取得支援を行っています。

特に高額な大型自動車免許においては、その重要性から取得に係る費用を会社が全額負担する制度が施行されました（一部条件あり）。



大型自動車運転免許を所持していないドライバー希望の求職者にも広く門戸を開いています。

◆教育プログラムの充実化

企業が継続的に成長するには、人材育成と技術・技能の確実な継承が不可欠です。「仕事を通じて人材を育てる」という観点に立ち、群桐グループの組織力向上と将来を担う人材の育成に取り組んでいます。

当グループでは従業員一人ひとりを「産業廃棄物処理のプロ」として育成するために、新卒・中途を問わず新入社員の教育には特に力を入れています。また、上司が部下のOJTをきちんと指導できるよう長期的な視野で個人と向き合って仕事の管理をしています。

今後も実務に沿った教育・研修プログラムの充実と共に、それぞれが実力を発揮できる職場の環境整備を行います。



社員による新人研修の様子（工場見学）。

◆新卒者の定期採用

群桐グループでは常に優秀な人材の確保に力を入れています。県内外の各所で開催されている合同企業説明会には積極的に参加し、会社見学や面接も随時受け付けています。

また、会社独自の面接説明会も開催して、新卒者の採用に余念がありません。2017年4月には群桐産業・群桐エコロ併せて3名の新卒者が採用となりました。



合同企業説明会では学生一人ひとりに十分な時間を設け、会社説明をいたします。

地域貢献活動(寄附・協賛)

◆公益財団法人結核予防会『複十字シール運動』

肺結核を中心とした胸の病気をなくし、健康で明るい社会をつくるための運動「複十字シール運動」に対し、群桐グループは社会貢献活動の一環として、毎年寄附をさせていただいております。

今回も予防会総裁であられる秋篠宮妃紀子殿下より感謝状を頂戴致しました。



公益財団法人結核予防会感謝状贈呈式。平成28年6月10日、リーガロイヤルホテル東京にて。

◆太田市庁用自動車車体広告掲載

(株)群桐産業は地元太田市からのご提案により、太田市庁用自動車(公用車)のラッピング広告掲載の年間契約をさせていただきました。



車種は軽自動車のプレオプラス。現在、広告掲載車2台が太田市内を走っています。

◆リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016ぐんま

がん征圧・がん患者支援を目的としたチャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」。群馬県では今年もALSOKぐんまアリーナで2日間のイベントが開催されました。

群桐グループは社員の健康診断でいつもお世話になっている健康づくり財団を通して寄附をしています。

地域交流

◆第13回ビジネス交流会

平成28年11月2日、ヤマダグリーンドーム前橋にて東和新生会(東和銀行)主催のビジネス交流会が開催されました。製造業やサービス業、食品関連小売業など様々な業種がブースを出展する中、群桐グループは群桐エコロ(株)で製造される人工砂サーブルオール®を紹介するため、今年も出展いたしました。

ブース出展している会社の他、一般の方を含めた外部からのお客様も多数来場されました。



ブースには多くのお客様がお越しになり、商品説明にとどまらず有意義な交流ができました。

◆彩の国ビジネスアリーナ2017

平成29年2月1日・2日の2日間、埼玉県および県内主要金融機関が主催するビジネスマッチングイベント『彩の国ビジネスアリーナ2017』が開催されました。前回より参加の(株)群桐産業は、今回もブースにてサーブルオール®および低濃度PCB廃棄物処理サービスについてPRさせていただきました。



お客様との商談の様子。尚、来年(2018年)も出展を予定しています。

◆会社周辺美化活動(ごみ拾い)

(株)群桐産業および群桐エコロ(株)では年に1回、「会社周辺美化活動」と称してごみ拾いを実施しています。

早朝から実施されるこの活動は、地域の環境美化とともに社員の環境意識の向上に繋がっています。



周辺には空き缶や空き瓶、ガラス片などが落ちていましたが、限られた時間内でほぼ回収しました。

地域交流(工場見学対応 抜粋)

◆太田市サイエンスアカデミー

平成28年7月27日、群桐グループの群馬ハイブリッドクリーンセンター(群桐エコロ株式会社)に、太田市サイエンスアカデミーのみなさんが工場見学にやってきました。このアカデミーは子供達に科学に興味を持ってもらうため、太田市の教育委員会が主催しています。

平成24年の来社から5度目となる今回も、身近な環境問題をテーマに廃棄物がリサイクルされる様を見学していききました。



来場する子供達は皆環境への関心が高く、見学後の感想文もいつも丁寧に書いてくれます。

◆高崎地区産業環境保全連絡協議会

平成28年11月4日、「高崎地区産業環境保全連絡協議会」の皆様が群桐グループの群馬ハイブリッドクリーンセンター(群桐エコロ株式会社)を視察に訪れました。

今回は総勢 16 名でお越しになり、会社案内 DVD 視聴後、3 グループに分かれて低濃度 PCB 廃棄物の処理工程及び固定床炉を見学されていきました。



無害化処理されたトランスを見学する様子。

◆わくわく子育てスクール『探検ぼくのまち工場見学』

平成29年3月28日、木崎行政センターが主催する【わくわく子育てスクール「探検ぼくのまち工場見学」】にて市内3ヶ所の工場見学が行われ、その中の1ヶ所として群馬ハイブリッドクリーンセンター(群桐エコロ株式会社)を見学に訪れました。

小学生と保護者と関係者の総勢 41 名で廃棄物がリサイクルされる様子を見学していききました。



人工砂を実際に手に取って確認する子供達。

表彰

◆太田市功労者及び徳行者表彰式

群桐グループは平成27年11月に太田市に車輛を寄付したことにより、今回徳行者として表彰されました。



太田市社会教育総合センターにて、式には(株)群桐産業 演屋社長、群桐エコロ(株)山口社長の両名が出席。

Record of past media coverageales

メディア掲載等

群桐グループが掲載された各メディアの一部をご紹介します。



企業サポートぐんま 2・3合併号 平成29年3月21日掲載



ぐんま経済新聞 平成29年3月23日掲載



毎日新聞『サンデー毎日』 平成29年5月23日掲載



循環経済新聞 平成29年8月7日掲載

◆社外評価(平成28年度群馬県優良企業)



(株)群桐産業は、平成28年度群馬県優良企業として表彰され、【産業・サービス部門 優秀賞】を受賞いたしました。平成29年3月28日に群馬県昭和庁舎正庁の間にて表彰式があり、(株)群桐産業の濱屋社長が出席いたしました。今回対象となったのは【ものづくり部門】10企業、【商業・サービス部門】10企業で、(株)群桐産業の受賞理由として「国内に数少ない低濃度PCB廃棄物固定床炉を導入し新サービスを提供」、「定期的な採用活動で、新卒を採用。女性管理職も積極的に登用している。」点が評価されての受賞です。

群桐グループは、事業活動にあたり地球環境の保全と従業員の安全・健康の確保に努め、企業としての使命を果たすために注力しています。

基本理念

当社は、全ての事業活動において、私たちが出来る事は、人類が生きていくための環境を守り整えることであることを深く認識し、地域・顧客・パートナーとの信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与します。

基本方針

当社は、産業廃棄物(特別管理含む)の収集運搬及び中間処理、廃油の再生処理を主な業務としていることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。

事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に把握し、同時にこれらが係わる環境関連の法律、規制、協定の要求事項を明確にし、全社及び各部門毎に環境目的・目標・管理計画を定め、全員で取り組み、環境保全活動の継続的な改善及び質の向上に努めます。

事業活動、製品およびサービスに係わる環境関連の法律、規制、協定を遵守し、さらに地域活動との協調により一層のリスクマネジメントに取り組みます。

また、お客様や関係業者地域社会や国との良好なコミュニケーションのため、積極的な情報開示に取り組みます。

環境保全と汚染防止の重要性を認識し、事業活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち以下の項目を環境管理の重点テーマとして、環境汚染の防止に取り組みます。

循環型社会に適合した廃棄物の回収及び再生処理により

(1)資源保護・再使用・再利用に配慮した製品を提供します。(省資源)

環境型社会を目指す事業活動として

(2)エネルギーの効率的利用をします。(省エネ)

(3)廃棄物の削減と適正処理とともに100%リサイクルの達成を目指します。

(4)環境影響の大きい廃棄物の焼却について、二次的な環境汚染を防ぎ、設備の適正管理を行います。

定期的に内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの見直しと自主管理の維持・向上に努めます。

環境教育、社内広報活動などを実施し全社員の環境方針の理解を図るとともに、協力企業構成員にも伝達し、環境に関する意識向上を図ります。

この環境方針は一般に公表します。

Environmental goal and track record

環境目標とその実績

①再生重油販売量

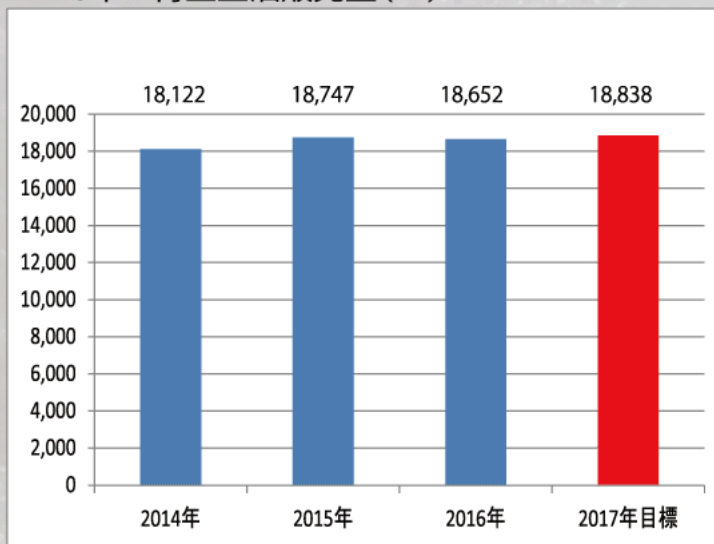
「循環型社会及び資源の有効活用に配慮した製品の提供」として廃油の燃料化を推進しています。これにより、新たな化石燃料の消費を抑制し、省資源に寄与します。

2016年度は、17,813KLの目標値に対して18,652KLとなり、プラス839KLで達成率は105%となりました。

自社での消費量が約25KL増加しましたが、それをはるかに上回る取扱量となり、非常に良い結果であったと評価できます。原料となる廃油の回収を効率良く実施できたことや新規顧客の獲得においても成果がありました。事務管理や製品の安定生産も併せて、関係する全ての

部門の努力が実った結果となりました。電気自動車の普及やオイルの品質向上により、年々廃油の発生量の減少が見込まれていますが、今後も引き続き出来る限りの努力を継続します。

14-16年 再生重油販売量 (KL)



②CO₂排出量削減

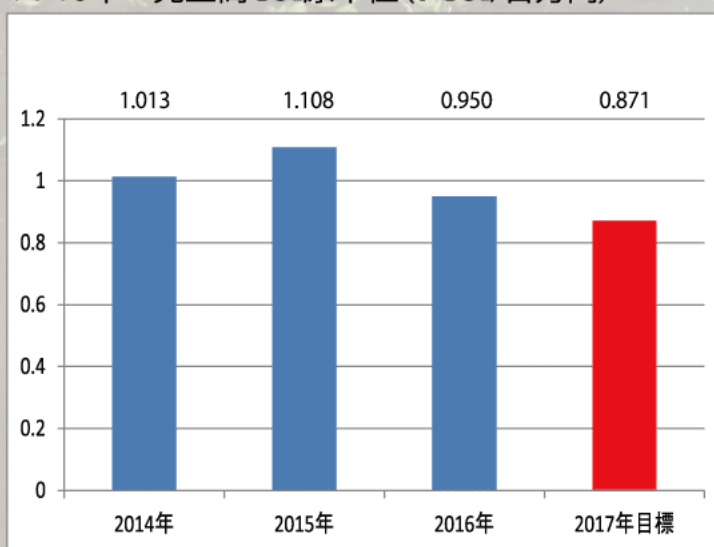
「地球温暖化(気候変動)防止活動」として、売上高CO₂原単位排出量の削減に努めています。

2016年度は、0.918t-CO₂の目標値に対して、0.950t-CO₂となり、目標を達成することができませんでした。

要因としては、事業の拡大に伴うエネルギーの消費量が見込よりも多かったことによります。しかし売上高が予想を上回ったことと、前の年度との比較においては良い数値であったことをポジティブに捉え、2017年度においては売上高のさらなる増加を見込んでいることから、より高い目標を掲げることとします。

全部門において、売上高に頼ることなく省エネの取り組みを着実に実施し、新たな取り組みも積極的に取り入れながら目標達成に向けて努力します。

14-16年 売上高CO₂原単位 (t-CO₂/百万円)

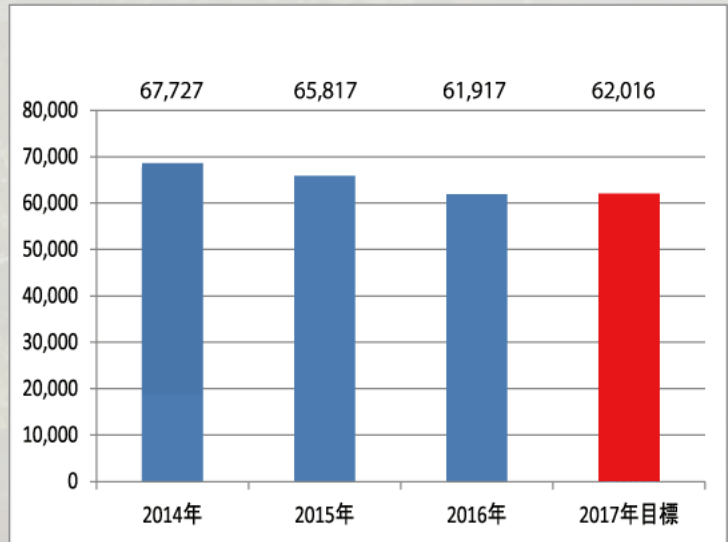


3 廃棄物焼却量

循環型社会を目指す事業活動として、受け入れた廃棄物の焼却処理後の燃え殻を溶融処理し、または廃棄物を直接溶融処理して、溶融固化物を生産し、これを加工して建設資材(人工砂)と金属資源をそれぞれ再利用することで、埋立処分を無くす取り組みを推進しています。したがって、当グループでの廃棄物の焼却溶融処理は循環型社会の構築に寄与します。

2016年度は、69,981トンの目標値に対して61,917トンとなり約88%の達成率となりました。要因は前年に引き続き受託廃棄物の発熱量が高い傾向にあり、処理量が減少してしまいました。処理温度を上げることも可能ですが、そのことによって燃焼設備への負担が大きく安定稼働に支障をきたす恐れがあることから自重しました。今後については目標値を下方修正するとともに対策を検討していきます。

14-16年 廃棄物焼却量(t)



4 水の使用量削減

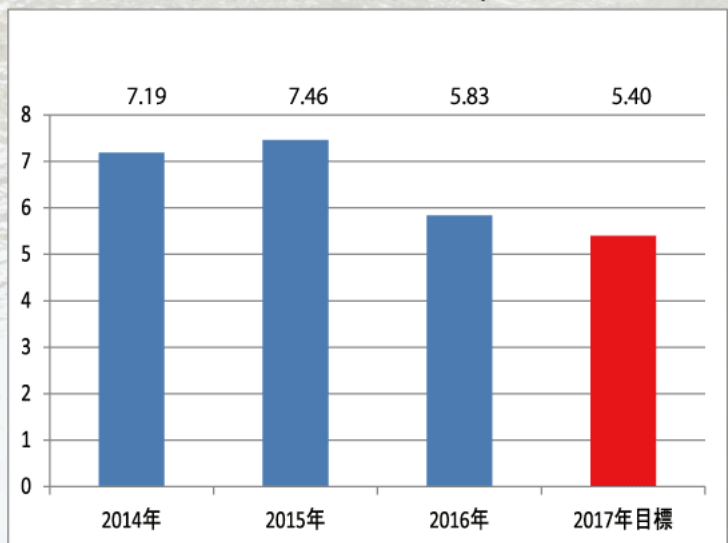
エネルギーの効率的な利用(省エネ)として、売上高原単位で水(上水)の使用量の削減に努めています。

2016年度は、6.89t/百万円の目標値に対して、5.83t/百万円となり目標を達成し、達成率は118%となりました。

上水の使用量は約400トン増加しましたが、売上高の増加によって目標を達成することができました。

2017年度は、さらなる売上高の増加を見込んでいますが、新たに本部機能を持って稼働を開始した群桐グループの本部ビルでの水の使用を考慮して目標値を設定しました。今後も引き続き節水を心掛け、新たな取り組みも検討していきます。

14-16年 水使用量売上高原単位(t/百万円)



ISO更新審査

平成28年8月22日～25日の3日間、群桐グループではISO14001認証審査機関(SGSジャパン株式会社)による更新審査が実施されました。

期間中は審査員による書類審査や社員インタビュー、作業立会審査等が行われ、後日無事に審査登録証が届きました。



経営層インタビューおよびシステム審査の様子。

施設の超省エネ運転

群馬ハイブリッドクリーンセンターの焼却溶融炉施設では、廃棄物を処理する際の熱エネルギーを回収・廃熱ボイラで蒸気を発生させて、発電に利用しています(サーマルリサイクル)。この発電量は1時間あたり平均830kwとなり、CO2排出量が余熱利用と併せて年間約2,000 t 削減されました。

また、燃料も工場内で製造された再生重油を使用しており、超省エネ運転を実現しています。



ロータリーキルンでは、燃料を殆ど使用せずに溶融運転を実現しています。

水使用量の削減

群桐グループの焼却施設では、排ガスの冷却に雨水を利用しています。

特に群馬ハイブリッドクリーンセンターでは、機器の冷却やボイラにおいて水の循環利用をはじめとする

効率的な利用に取り組み、水使用量の削減に努めています。



雨水だけでは不十分な場合のみ地下水を汲み上げて使用しています。

エコドライブ

(株)群桐産業では、約60台もの大型車両を保有しており、お客様の元に廃棄物を回収に行く際に使用されます。その際に、より効率的に業務が遂行できるよう徹底した運行管理により無駄のないルート回収をしています。

特に廃油の回収車両においてはGPSも搭載しており、リアルタイムでの監視が行われています。

これらの余分な排気ガス排出の抑制の他、搭乗ドライバーには安全運転および環境に配慮したエコドライブを推奨しています。



車両搭乗前には必ず入念な点検を行い、安全にも十分気を配ります。

排ガス無害化処理システム

(株)群桐産業と群桐エコロ(株)の各プラントでは、排ガスを適切に管理しています。

二次燃焼室で未燃分を分解後、急速冷却。その後消石灰による吸着・バグフィルタでのろ過を経た後、大気に放出されます。

尚、排ガスは通常の基準値よりもさらに厳しい自社基準を設け、数値を下回るよう常に気を配っています。

Measurement of air environment

大気環境測定結果

群桐グループでは、周辺環境への影響を常に把握するため、ダイオキシン類やばい煙等の測定を行い、その結果をホームページで公開しています。

◆大気環境測定結果(直近値)

1. ダイオキシン類

対象施設:株式会社 群桐産業 焼却施設

資料採取日:2016.9.27 証明書発行日:2016.10.19

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.85 ng-TEQ/m ³ N	5 ng-TEQ/m ³ N	4.0 ng-TEQ/m ³ N
焼却灰	0.012 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.22 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g

対象施設:群桐エコロ株式会社 焼却溶融施設

資料採取日:2016.7.14 証明書発行日:2016.8.5

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.019 ng-TEQ/m ³ N	0.1 ng-TEQ/m ³ N	0.1 ng-TEQ/m ³ N
焼却灰(溶融固化物)	0.00077 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.42 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g

2. ばい煙(ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素)

対象施設:株式会社 群桐産業 焼却施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日:2016.9.27 計量証明発行日:2016.10.4	資料採取日:2017.4.18 計量証明発行日:2017.5.10		
ばいじん濃度	0.003 g/m ³	0.016 g/m ³	0.15 g/m ³	0.12 g/m ³
硫黄酸化物量(K値)	0.21 m ³ /h	0.090 m ³ /h未満	8.0 m ³ /h	6.4 m ³ /h
窒素酸化物換算濃度	16 ppm	31 ppm	250 ppm	200 ppm
塩化水素換算濃度	90 mg/m ³ 未満	120 mg/m ³	700 mg/m ³	560 mg/m ³

対象施設:群桐エコロ株式会社 焼却溶融施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日:2017.2.10 計量証明発行日:2017.2.23	資料採取日:2017.4.7 計量証明発行日:2017.4.17		
ばいじん濃度	0.004 g/m ³	0.004 g/m ³	0.04 g/m ³	0.02 g/m ³
硫黄酸化物量(K値)	0.45 m ³ /h	0.21 m ³ /h未満	17.5 m ³ /h	6.0 m ³ /h
窒素酸化物換算濃度	65 ppm	78 ppm	250 ppm	150 ppm
塩化水素換算濃度	43 mg/m ³ 未満	120 mg/m ³	700 mg/m ³	150 mg/m ³

避難誘導および消火訓練

群桐グループ各社では年1回、有事に備え避難誘導及び消火訓練を実施しています。弊社プラントでは廃油を中心とした様々な危険物を取扱っているため、私達は毎年消防訓練を実施し、いつ災害が起きても適切な行動ができるよう繰り返し訓練を行っています。



水を入れた消火器を使用しての放水訓練。

OJTによる安全指導

可燃物をはじめとする危険物を数多く取り扱う弊社では、経験が浅いスタッフへの現場でのOJTによる安全指導が徹底されています。

特に大型の特高トランスなどの搬入や処理に携わる群桐エコロ(株)の固定床炉を担当するスタッフは、特に慎重な作業を要求されるため、常日頃からの安全指導は不可欠となります。



大型フォークリフトで特高トランスを移送する際の注意すべきポイントを指導する様子。

5SおよびKY活動の徹底

群桐グループのプラントスタッフは、常に5S活動(整理・整頓・清潔・掃除・躰)を意識して業務に励んでいます。

また危険予知活動(KY活動)も積極的に取り入れており、日々の業務に起こり得る危険を予め予測し共有することで安全に配慮しています。

これらは製造業やサービス業における基本的な活動ですが、徹底することにより業務の効率化や職場の安全性向上などに効果を発揮します。

油流出対応訓練

群桐エコロ(株)では、毎年油の流出事故に備えての対応訓練を実施しています。タンク配管からの流出や、ドラム缶の横転などを想定して、適切な処置ができるよう訓練を行います。

訓練の後は作業員同士でミーティングを行い、緊急時対応手順表や連絡表等を見直して作成しています。



構内での流出を想定した対応訓練。初動での適切な処置が極めて重要です。

安全教育・教育訓練

従業員のヒューマンエラー防止の観点から群桐グループでは、毎月1回の安全教育及び教育訓練を行っています。

また、5月31日を「群桐グループ防災の日」として制定しており、毎年近い日にちを選定して太田市消防による安全教育講習を行っています。

今年は新社屋の大会議室を会場として実施され、グループのほぼ全従業員が参加し講習を受けました。



今回の内容は危険物規制の目的および体系、危険物施設の事故統計や火災事故事例などが中心。

編集方針・後記

本レポートは、群桐グループに関係する全てのステークホルダーの皆様へ、当グループ全体の環境保全に向けた活動、ならびに社会に配慮した活動について深く理解していただき、より一層の信頼をいただくことを目的に編集いたしました。

報告にあたっては、ステークホルダーの皆様にお伝えしたい事項を重点的に取り上げることで、当グループの活動を理解しやすい紙面づくりに努めました。

本レポートは「経営」「社会」「環境」の3つの側面に特化して形成されています。群桐グループのその他の活動・取り組みにつきましては、弊社ホームページをご参考いただければ幸いです。

群桐グループは、産業廃棄物処理業者としてこれからも社会に貢献し続けていくことを目指します。また、常に新しい試みを模索し、より環境に優しい処理方法を追求していく所存でございます。

株式会社 群桐産業 総務部広報室 家富 和之





株式会社 群桐産業

〒379-2304 群馬県太田市大原町78番1
TEL:0277-78-2479 FAX:0277-78-5084
URL <http://www.grr.co.jp>



群桐エコロ 株式会社

〒370-0351 群馬県太田市新田大町600番26
TEL:0276-55-0500 FAX:0276-55-0501
URL <http://www.grr.co.jp/ecologista/>